

**国際医療福祉大学大学院
オープンキャンパス**

**医療福祉ジャーナリズム分野
ズーム説明会**

～ 2022年9月11日（日曜日）～

「働きながら学びたい。」

—— 社会人が学びやすい3つの特長

1 カリキュラム

多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。eラーニングシステムを用いたVOD授業、夏期・冬期や日曜日の集中講義も充実しています。

2 同時双方向遠隔授業

テレビ会議方式を用いた遠隔授業システムで、音声や映像、パソコンのファイル情報がリアルタイムで共有できます。

3 7キャンパスを開設

全国6つの都県に7つのキャンパスを開設。それぞれのキャンパスを遠隔授業システムで繋ぎ、遠隔地からの授業も不便なく受講できます。

全国に7つのキャンパスを展開

自宅や職場の最寄りのキャンパスで、授業やゼミ、研究指導を受けられます。

大田原（栃木県）、成田（千葉県）、東京赤坂（東京都）、小田原（神奈川県）、熱海（静岡県）、福岡・大川（福岡県）に7つのキャンパスを開設しています。

2018年4月に開設した東京赤坂キャンパスには、学会や研修が開催できる1,000人規模の講堂や多目的ホールなどもあり、保健・医療・福祉の研究・教育拠点をめざしています。また、東京メトロ「赤坂見附駅」「永田町駅」から徒歩3分とアクセスも良く、社会人が働きながら学びやすい環境を整えています。



東京赤坂キャンパス
(東京都港区)



大田原キャンパス
(栃木県大田原市)



成田キャンパス
(千葉県成田市)



小田原キャンパス
(神奈川県小田原市)



熱海キャンパス
(静岡県熱海市)



福岡キャンパス
(福岡県福岡市)



大川キャンパス
(福岡県大川市)

国際医療福祉大学の理念

国際医療福祉大学は、「人間中心の大学」、「社会に開かれた大学」、「国際性を目指した大学」という3つの基本理念を掲げ、病む人も、障害のある人も、元気な人も、互いに互いを尊敬しあいながら「共に生きる社会」の実現を目指した教育を行っている。

大学院の教育理念

- ▶ 修士課程では「保健医療福祉の分野において他分野を理解し、連携することのできる高度専門職または研究職」の育成をめざし、博士課程では「保健医療福祉の分野において指導者的役割を果たすことのできる人材」の育成を目標に

4つの教育理念を掲げています。

- ▶ 保健・医療・福祉分野の高度専門職を養成する「専門性」
- ▶ 3分野に幅広い視野を持つ「学際性」
- ▶ 高度化・専門分化に対応した教育と研究の「学術性」
- ▶ 働きながら、遠隔でも双方向で学べる「利便性」

国際医療福祉大学大学院の 教育理念

修士課程では、大学を卒業した保健・医療・福祉分野の専門職またはこれに準じる人々に再教育の場を提供することにより、高度専門職を養成します。また博士課程の学生、および修士課程でも研究者を志す学生には、徹底した研究指導を行います。

専門性

本大学院は、修士課程では「保健医療福祉の分野において他分野を理解し、連携することのできる高度専門職または研究職」を育成することをめざし、博士課程では「保健医療福祉の分野において指導者的役割を果たすことのできる人材」を育成することを目標にしています。この目標を達成するため、4つの教育理念を掲げています。

学際性

種々の領域の講座を聴講できる、あるいは他領域の先生や学生と討論を行うことができる場の提供により、保健・医療・福祉分野の幅広い視野を持つ学生の養成に努めます。

学術性

各教員が、日進月歩する保健・医療・福祉の高度化・専門分化に対応した教育と研究の推進に努めます。

利便性

働きながらも学修できる授業時間割編成、遠隔テレビ会議システム、Webコミュニケーションツールによる双方向授業の導入などにより、従来なら時間的、空間的制約のために大学院教育を受けられなかった社会人に対しても大学院教育の門戸を開きます。

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

博士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
- 災害医療分野
- 医療遺伝学分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 臨床心理学分野

修士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 特定行為看護師養成分野
(旧:ナースプラクティショナー養成分野)
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
- 災害医療分野
- 遺伝カウンセリング分野
- 医療機器イノベーション分野

医療福祉経営専攻

- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療通訳・国際医療マネジメント分野

臨床心理学専攻

薬学研究科

博士課程 (4年制)

医療・生命薬学専攻

- 医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻

- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

医学研究科

博士課程

医学専攻

- 基礎医学研究分野
- 社会医学研究分野
- 臨床医学研究分野

修士課程

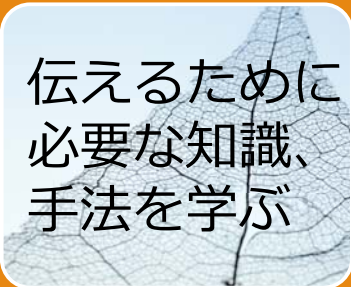
公衆衛生学専攻

- 国際医療学分野
- 疫学・社会医学分野
- 医療福祉管理学分野
- 予防医学分野

医療福祉ジャーナリズム分野

- ▶ ジャーナリストとしての発信力を磨こうという人だけでなく、社会に向かって発信したいという思いを持った方、医療や福祉の専門職、介護職、行政、NPO関係者らが学んでいます。
- ▶ そのために必要な「伝える技術」を、ジャーナリストとして活躍した教授陣が、一人ひとりの持ち味を生かし、作品や論文完成まで、親身に伴走します。

医療福祉ジャーナリズム




伝えるために
必要な知識、
手法を学ぶ

医療・福祉の情報が増す中、情報を読み解く力、伝えるために、必要な知識と手法を学ぶことが大切です。医療関連施設でも大切な広報、伝える内容と技術が学べるコースです。



経験豊かな
講師陣
広い人脈

講師陣は、医療福祉の世界を熟知した著名なジャーナリスト。現場を知る多彩なゲストを招いた講義やゼミは充実し、研究の親身なサポートに加え、人脈も広がります。



社会に向け
情報を発信

修士、博士の終了者は57人に上ります。スウェーデンの専門家、縛らない医療のカリスマ看護師、医療事故の会主催者、各立場で社会に向けて情報を発信しています。

ジャーナリズム分野水先案内人



分野責任者・丸木一成教授 読売新聞の看板企画、7000回を超え、今も続く「医療ルネサンス」の初代デスク、読売新聞医療情報部長などを務める。同企画は新聞協会賞、菊池寛賞を受賞。本学では栃木本校の医療福祉学部長など歴任。



大熊由紀子教授 朝日新聞論説委員時代、「日本の福祉を変えた」といわれる、『「寝たきり老人」のいる国、いない国』など多くの著書、「えにしメール」6000通の情報発信力で、福祉と医療、現場と政策をつなぎ、志ある人を発掘、応援し続ける、著名なジャーナリスト。



埴岡健一教授 日経ビジネス、メディカルで経済と医療を学び、東大の医療政策人材養成講座の特任助教授、日本医療政策機構がん政策情報センター長を歴任、「医療政策サミット」を立ち上げ、がん医療の質向上、均てん化に取り組む。ビッグデータにも強く、「はにゼミ」は院生に好評。



医療福祉ジャーナリズム分野（修士課程）

少子高齢化が進む中、我が国を襲ったコロナ禍は、医療福祉の重要性を改めて国民に示しています。医療・福祉を専門とするジャーナリストの重要性が指摘されていますが、これまで全国の大学では養成の場はありませんでした。

医療福祉関連施設でも広報の重要性が高まり、そのための必要な知識・技術は、医療福祉ジャーナリズムと共通のものが数多くあります。こうした社会的要請にこたえて、本大学院では**2005年、医療福祉ジャーナリズムの知識・技術を深めるコースを新設**しました。

全国でも例のない「医療福祉ジャーナリズム分野」です。**2021年度までに、修士・博士の修了生は、57人(修士50人、博士5人)に達し、各界の一線で活躍しています。本分野では、新聞社で経験を積んだ、著名なジャーナリストが、教授として教鞭をとっています。**さらに、各キャンパスでは、医療福祉の専門大学ならではの医療福祉関連の基礎的な講義が広い分野で行われ、他分野の教員、学生を通じて、生きた医療や福祉の知識を学ぶこともできます。ジャーナリズム分野の院生は、自分の興味や関心に応じて、研究テーマを選ぶことができます。

「医療福祉ジャーナリズム分野」

2005年開設から2021年度まで、

修了生は 57 人（修士・50人、博士5人）

修士論文

医療事故の被害者による「医療に安全文化を」の提案（2011年）
縛らない医療のバイオニア看護師による「さらばオムツ」（2012年）
鹿児島県の保健師の「地域包括ケアの保健師の役割」（2015年）
がん体験者による「看護師のがん体験と生き方の考察」（2017年）
「精神病薬を断薬して回復した人々の物語」（2018年）
ケアマネジャーによる「美しくいきいきと老いること」（2019年）

博士論文

スウェーデンの認知症ケアをテーマとした「ケアの概念としてのオムツ
ーリ」（2014年）
障害者福祉サービスをホスピタリティの視点から考察する（2017年）

定められた修業年限

修士課程 1年間もしくは2年間 **博士課程** 3年間もしくは4年間

(専攻・分野・領域により定められた年限は異なります。)

必要な単位の修得

必修科目

講義、演習、研究指導

(実習が課される分野・専攻もあります。)

選択科目



学位論文の執筆
課題研究の作成



審査に合格
最終試験に合格

修士課程

必修科目 18 単位 + 選択科目 12 単位 = 30 単位以上

必修科目・選択科目の単位数は、専攻・分野・領域・コースによって大きく異なります。

例：福祉支援工学分野 福祉用具管理指導者領域 福祉用具管理指導者コースは必修のみ 32 単位以上
放射線・情報科学分野 放射線治療学領域 医学物理コースは必修 39 単位+選択 8 単位= 47 単位以上
など

博士課程

必修科目 = 12 単位以上

医療福祉学研究科のすべての専攻・分野で、上記のように定められています。

一方、薬学研究科では、必修 22 単位 + 選択 10 単位 = 32 単位以上、医学研究科では必修 20 単位 + 選択 10 単位 = 30 単位以上の修得が必要となり、研究科によって異なりますのでご注意ください。

⑧医療福祉ジャーナリズム分野

医療福祉ジャーナリズム領域

■医療福祉ジャーナリズム分野 医療福祉ジャーナリズム領域 修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備 考
	必修	選択	
共通科目	—		
専門科目	16単位	14単位以上	「医療福祉ジャーナリズム概論」(2単位) 「地域医療福祉ジャーナリズム特論」(2単位) 「医療福祉ジャーナリズム特論」(4単位) 「医療福祉ジャーナリズム演習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「医療福祉ジャーナリズム課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 計16単位必修
小計	16単位	14単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、分野専門科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

- それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画(シラバス)』を閲覧してください。閲覧方法→P199
- 科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の2種類の表を参照してください。
 - ①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次 (表①/表②-2) →P20・29
 - ②遠隔授業時間割表—大学院用Web 掲示板よりダウンロードできます。

■ 公開講座「乃木坂スクール」

社会人を対象とした大学院公開講座です。講座の内容は、医療福祉の幅広い領域をカバーするとともに、まさに現在私たちが直面する課題や時代の潮流を先取りしたテーマなど多彩です。

大学院の正規授業を一般公開する形式と、独自に講座を企画する形式があり、平日の夜間帯を中心に基本的に1講座15回で行われます。

ゲスト講師には医療福祉分野の第一線で活躍するリーダー、有識者の方々を迎え、最新のトピックスを取り上げます。Web受講にも対応しており、開講中は好きな時に何度でも視聴が可能。本学大学院生は、ほとんどの講座を無料で聴講できます。



最新の講座情報や、講義の様子などがご覧いただけます。

Twitter

Facebook



講座紹介 ※カッコ内は授業科目名

- 特別講座「新型コロナウイルス感染症対策の最前線～2022年版～」
和田 耕治 教授・松本 哲哉 教授
- 21世紀福祉社会論（保健医療福祉政策論Ⅰ／医療福祉学Ⅰ）
中村 秀一 教授
- ケアマネジメント・自立支援介護（介護福祉・ケアマネジメント学講義・演習）
石山 麗子 教授

2022年前期 ジャーナリズム関連乃木坂スクール講義

- ▶ **大熊由紀子教授 前例を超える・前例を創る～医療者として、患者経験者として、ジャーナリストとして**（医療福祉ジャーナリズム特論）
- ▶ 主なゲスト講師 木村利人・日本生命倫理学会元代表理事、山崎文章郎・認定NPO法人コミュニティケアリング理事長、青山浩平・NHK 特集班ディレクター、村上陽一郎・東京大学名誉教授
- ▶ **丸木一成教授 読売新聞特別講座「ポストコロナに向けた日本の課題」**（医療福祉ジャーナリズム概論）
- ▶ 主なゲスト 長谷川敏彦・未来医療健康機構代表理事、大津和夫・読売新聞論説委員、伊藤俊行・読売新聞編集委員
- ▶ **埴岡健一教授 医療・介護・福祉の計画を策定・評価・改善する～EBPMに向けたPDCA確立のために～**（地域医療福祉ジャーナリズム特論）
- ▶ 主なゲスト 鷺見学（厚労省地域医療計画課長）、古元重和氏（厚労省老人保健課長）、源百合子氏（明治大学公共政策大学院教授）、村岡佑哉氏（滋賀県庁）、前村聡氏（日経新聞編集局 社会保障エディター）

2021年前期 ジャーナリズム関連乃木坂スクール講義

- **大熊由紀子教授 前例を超える・前例を創る～専門職として、ジャーナリストとして、そして、つらい経験から** 医療福祉ジャーナリズム特論)
- 主なゲスト講師 保坂展人・世田谷区長、横倉義武・日本医師会名誉会長、市原美穂・全国ホームホスピス協会理事長
- **丸木一成教授、水巻中正教授 読売新聞特別講座「ウイズ・コロナ時代を生きる」** (医療福祉ジャーナリズム概論)
- 主なゲスト 鈴木康裕・前厚労省医務技監、大津和夫・読売新聞論説委員、木村達矢・読売新聞科学部
- **埴岡健一教授 医療関係計画におけるPDCAサイクルの作り方～患者・住民に成果を届けるために** (地域医療福祉ジャーナリズム特論)
- 主なゲスト 増田昌人氏 (琉球大学病院がんセンター長)、高嶺公子氏 (沖縄県庁)、大井久美子氏 (奈良県中和保健所)、井岡亜希子氏 (秋田大学医学部付属病院)

⑩医療福祉ジャーナリズム分野

医療福祉ジャーナリズム領域

■医療福祉ジャーナリズム分野 医療福祉ジャーナリズム領域 修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備 考
	必修	選択	
共通科目	—	2単位以上	「医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅰ～Ⅴ」(各2単位) 計10単位必修
専門科目	10単位		
小計	10単位	2単位以上	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記12単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

- それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『シラバス (授業計画)』を閲覧してください。閲覧方法→P199
- 科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の2種類の表を参照してください。
 - ①専門科目一覧と標準履修年次 (表③) → P82
 - ②修士課程共通科目一覧 (表①) → P20



医療福祉ジャーナリズム分野（博士課程）

修士課程

博士課程

医療技術が進歩し、人口構造が変化する中で、医療と福祉、その質を高めるための政策や人材に寄せる人々の関心とニーズは、年を追うごとに高まっています。尊厳と自己決定にもとづく新たな医療福祉文化の創造も求められています。作業仮説をたてる⇒法則を発見する⇒実証・検証・分析によって、それを吟味する、というプロセスに関しては、ジャーナリズムは、他の学問領域と共通した方法論をもっています。異なっているのは、得られた成果を、説得力のある文章や映像に纏めあげて、人々の心を動かし、社会を変革することです。

この分野では、その方法論を身につけ、指導者としての実力をつけることを目指します。他分野と異なり、作品と論文を一对の成果物とします。

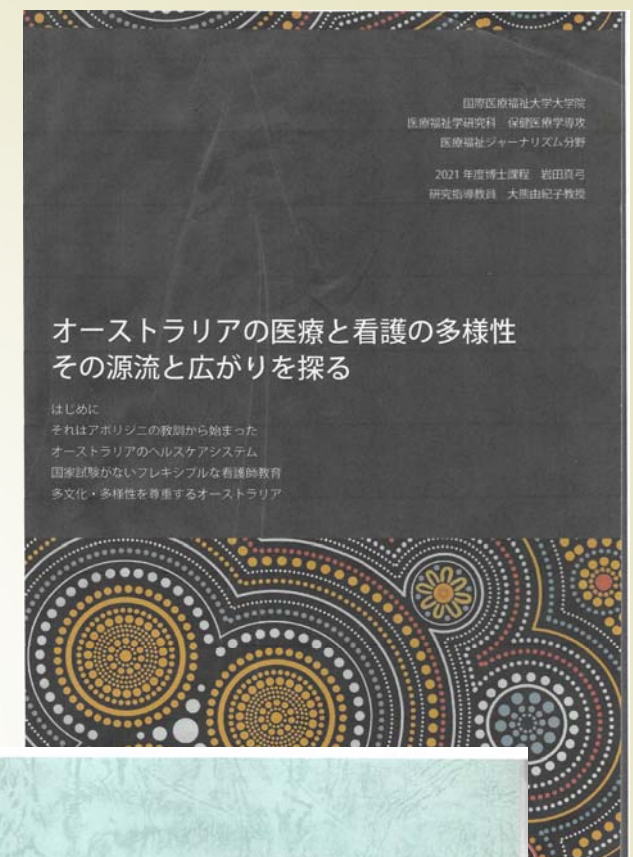
2021年度 博士・修士論文

◆岩田 真弓さん（博士）

博論のタイトルは「ナラティブからみるオーストラリアで働く日本人看護師の経験～柔軟な文化や組織・教育の視点を探る」。オーストラリアの看護師経験17年を生かし、文化背景の異なる患者の看護に必要なことを、国際化の進む日本の現場への提言

◆伊藤 かおるさん（修士）

2004年、当時5歳の次男を悪性脳腫瘍で亡くした。当時の日記をもとに、闘病記を書くだけでなく、16年後に闘病記を書く意味を、悲しみと向き合いながら考察した、労作だ。病児や家族の心理的苦痛を軽減するための素材の提供との思いから始めた考察は、体験者ならでは指摘も多く、リエゾンナースが生活カンファレンスを開催、チームで支える提案もしている。



オーストラリアの医療と看護の多様性
その源流と広がりを探る

はじめに
それはアボリジニの教訓から始まった
オーストラリアのヘルスケアシステム
国家試験がないフレキシブルな看護師教育
多文化・多様性を尊重するオーストラリア

闘病記を書く意味
～16年後に書きながら考える～

笑顔のあなたと生きていく
～脳腫瘍で逝った息子の記録～



2020年度 修士・博士論文

◆永野 富美子さん（修士）

認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会の実現を目指す挑戦

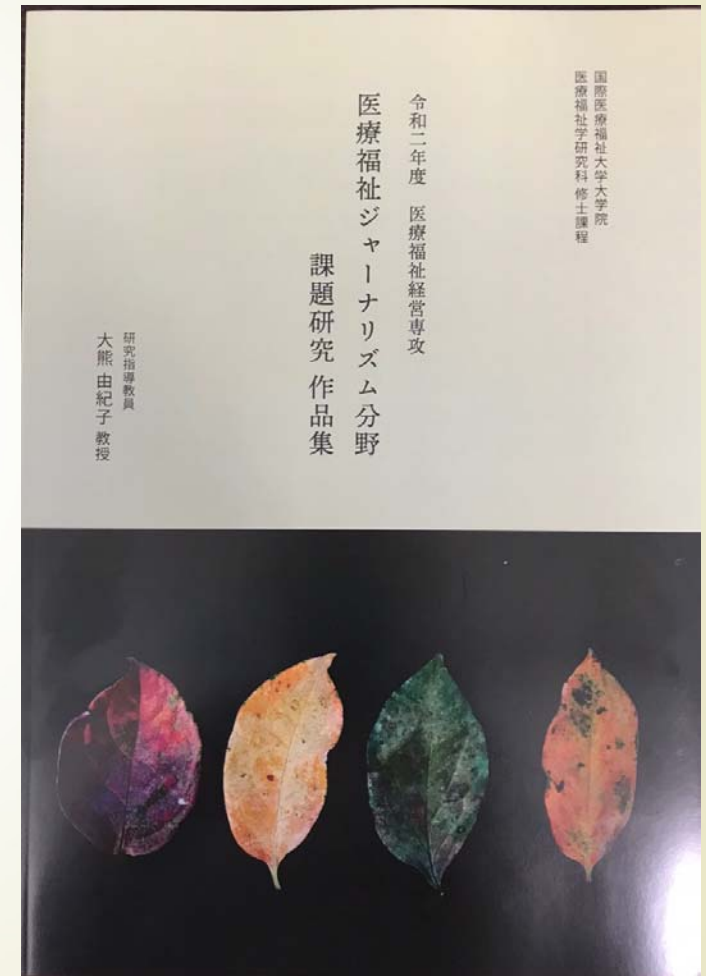
◆平岩 千代子さん（修士）

認知症当事者の主権回復院に挑んだ3人の看護師

◆藤村 忍さん（修士）

認知症の人が「地域で暮らすことが困難」と判断される要因とその構造的課題

認知症が共通したことから、指導教官の大熊由紀子教授を交えた「課題研究を書き終えたいま～認知症のある人をめぐって～」の座談会を巻頭に、修士作品に発表スライドを加えた「課題研究作品集」を21年3月出版した。



2019年度 修士・博士論文一覧

◆西村多寿子さん（博士）

「日本の臨床研究の質向上に向けてメディアの果たす役割」
～研究不正の報道は臨床研究のルールづくりに影響を与えたのか～

◆井手公正さん（修士） 日本とデンマーク、両国を経験した留学生の障害者観の変化

～障害当事者の視点で原因を分析する～

◆田中知世子さん（修士）

「要介護状態になったとき自宅で生活を継続するための条件」
～100年人生を自分らしく生きるために～

◆野田里美・月崎時央さん（修士）

精神病薬を断薬して回復した人々の物語ー当事者の語りから考察する薬の適正使用ー

“認知症と拘束” 尊厳回復に挑むナースたち

Restraints in Nursing

執筆 平岩千代子
語り 田中とも江
小藤 幹恵
永田久美子
寄稿 大熊由紀子

前例を超え、前例を創る。



介護士としての心、
現場で働く介護士が
現場で学んだこと

私は見た!

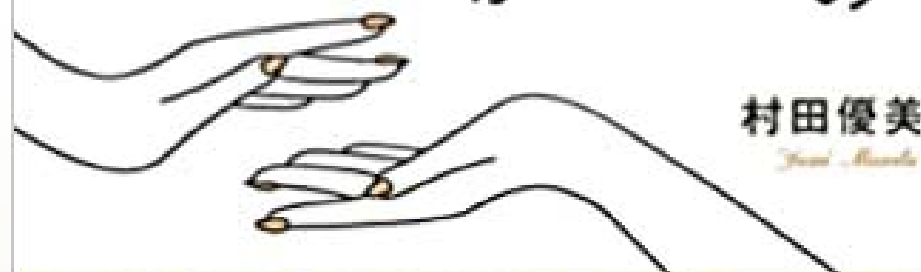
ポル 看護という 仕事

著者 村田優美

より自分らしく生きるための
41のマストルール

「介護の現場」が
教えてくれた

美しい歳の
とり方は



村田優美
Yumi Murata



40代を経て、もっと美くなる!
心をセットして、
人生を楽しもう!

社会福祉士、介護支援専門員として見てきた「老いと「美」」。
国民的美容女コンストラクタ/美容師による、
美しく年齢を重ねるための、誰でも知ってもらえる新常識。

井手公正さん（修士）

日本とデンマーク、両国を経験した留学生の障害者観の変化
～障害当事者の視点で考える～

医療福祉経営専攻・医療福祉ジャーナリズム分野
井手公正(16S2006)

研究指導教員：大熊 由紀子教授
副研究指導教員：水巻 中正教授



2018年度 修士論文一覧

◆相澤万紀さん（修士）

慢性呼吸器疾患の栄養ケアのあるべき姿を考える～患者に“食”が寄り添うために～

◆浅野泰世さん（修士）

患者が「人を対象とする医学研究」に参加する意味の考察
～DIPEX-Japan「臨床試験・治験の語り」テキストデータの分析から～

◆清田政孝さん（修士）

がん患者に理解しやすい施設別情報提供の仕方
～満足してがん治療を受けるために～

◆鈴木隆子さん（修士）

車いすに乗った谷口明広先生ものがたり～自立生活に向けての奇跡とメッセージ～

◆田原浩子さん（修士）

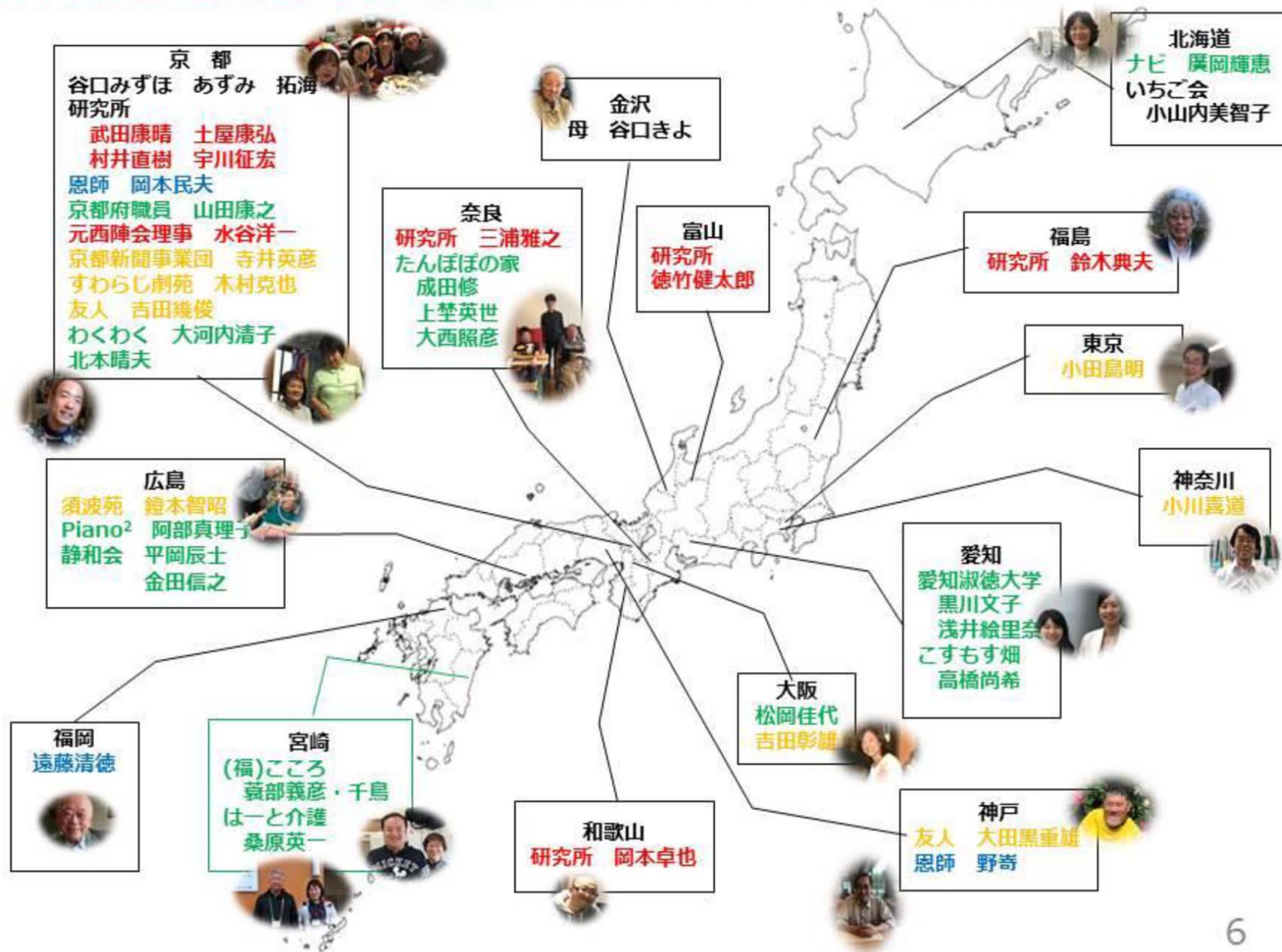
住民が主役の地域づくり政策に関わる行政側の現状と課題
～生活支援体制整備事業の「協議体」に着目して～

◆村田優美さん（修士）

美しくいきいきと老いること～アピアランスケアに深さと広がりをもつ

鈴木隆子さん（修士）

谷口明広先生ものがたり各地のインタビュー協力者



入学から修了までの流れ

大学院に入学してから修了するまでの流れを簡単にご説明します。

本学では多種多様な専攻・分野・領域を展開しており、それぞれ特色ある学修を展開していますので、あくまで一例になりますが、ご自身の大学院生活の参考にしてください。

入学

修士課程

修業年限：1年間もしくは2年間

必要な単位の修得

必修および選択として設定された講義や演習、研究指導科目を履修し、単位を修得します。対面での講義やeラーニングでの自宅学習、定期的な個別指導やゼミなどを通じ、論文執筆・課題研究の作成に向けて研究のテーマを検討し、必要な知識を修得します。学外や学内での実習が課される分野もあります。

博士課程

修業年限：3年間もしくは4年間

必要な単位の修得

博士課程は博士学位論文の作成を最終的な目標としています。講義、演習、研究指導等で構成される必修科目を履修しながら、研究テーマの策定、必要な文献検索、実際の論文作成を指導教員と二人三脚で進めていきます。他分野で展開される科目なども履修できるので、幅広い領域の知識を吸収し、論文の完成をめざしましょう。

研究報告会

修士課程、博士課程ともに、年に1回、論文作成を課されているすべての専攻・分野の院生が一堂に会し、それぞれの研究進捗を発表し合う研究報告会があります。他分野、他領域の先生や院生からの質疑も飛び交い、分野の枠を超えて新たな知見を得られる機会になります。

またこうした定例の報告会の他、各分野内で定期的に報告会を行ったり、課題研究を課されている専攻・分野は独自で報告会を開催するなど、研究を深める機会が定期的に設けられています。

論文審査・課題研究の審査

修士論文は最終学年の秋に論文を提出し、指定された3名の審査員にプレゼンテーションを行い、論文の審査を受けます。課題研究の場合は最終学年の終わりまでに、分野内で行われる審査会で可否の判定を受けます。

論文の審査

博士論文は最終学年の秋に論文を提出し、指定された3名の審査員にプレゼンテーションを行い、論文の審査を受けます。審査は時に多くの指摘事項を受け、修正を踏まえた何回にも及ぶ審査会の末に可否が判定されます。

研究成果発表会

修士課程、博士課程それぞれ、論文審査に合格した方は研究成果を発表します。この発表会においては、研究成果を大学院全体で共有する目的のほか、他分野の先生や院生からの質疑も行われ、論文をより良いものに仕上げる最終的な機会となります。

修了

論文審査または課題研究の審査まで合格すれば晴れて修了となり、修士の学位が得られます。修了後は大学院で学んだことを職場などで実践したり、より研究を深めるために博士課程に進学する方も多くいます。

修了・満了

論文審査まで合格すれば晴れて修了となり、博士の学位が得られます。審査に合格しなかった場合は、留年するか、満了(単位取得退学)をするかを選べます。満了後も、論文博士の審査を受けることで学位取得をめざすことができます。

授業時間・授業週間

本大学院では、1年を前期と後期に分け、それぞれ15週間ずつの授業週間として設定しています。前期と後期でそれぞれ履修科目を選択し、単位を修得します。成績の判定は、授業への出席（eラーニング科目の場合は各回の履修）、および課題や期末レポートで判断します。また、各期の間に集中講義として実施する科目もあります。

1日は7時限まで設定され、多くの講義を18時以降（6時限以降）に開講しており、仕事を持つ社会人でも通いやすい時間設定となっています。eラーニング科目をうまく組み合わせることで、登校する曜日を限定することも可能です。

※2020年現在、新型コロナウイルス（COVID-19）の流行により、多くの科目をオンラインで展開しております。

授業週間

学期	期間
前期	4月～7月末
夏季休暇	8月～9月中旬
後期	9月下旬～1月上旬
冬季休暇	1月中旬～3月末

※年度によって多少前後します。

授業時限と時間帯

時限	期間
1時限	09:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:45～21:15

※土曜日は6時限まで、日曜日は授業はありません。

実際の時間割例

時間割は選択する科目はもちろん、各分野の必修単位により大きく異なります。多くの分野・専攻では夜間帯と土曜日を中心に講義を展開していますが、例えば臨床心理学専攻では平日の日中に授業を展開しており、特定行為看護師養成分野では木・金・土の終日を授業日として設定するなど、それぞれに特徴があります。

以下に一例をお示ししますが、ご自身の志望される分野・専攻の時間割は、HP 等でご確認ください。

働きながら看護学分野（CNS コース）に通う学生のモデル 1 週間

赤坂花子さん（仮名）：1 年在学中、東京都内在住。都内の病院にて看護師としてフルタイムで勤務している。

赤坂さんの 1 週間

	月	火	水	木	金	土	日
13:00 ~ 17:50	勤務	勤務	家事 予習、復習	3 限: 高度実践病態生理学 4 限: (専門領域) 講義 I 5 限: 自習 (図書館利用)	3 限: 高度実践フィジカル アセスメント 4 限: 高度実践 臨床病態生理学 5 限: 高度実践 臨床薬理学	3 限: 高度実践クオリティ マネジメント論 4 限: 看護学研究法 II (量的研究) 5 限: ゼミナール	勤務または休日
18:00 ~ 19:30	6 限: 疫学概論 (オンライン)	6 限: 看護学研究法 (オンライン)	夜勤	6 限: 統計学入門	6 限: 看護倫理学	教員、ゼミ生と 懇談後帰宅	趣味、カルチャー スクールなど ↓ 予習、復習
19:45 ~ 21:15	夕食 ↓ 予習、復習	7 限: 高度実践 看護学講義 (オンライン)		夕食 ↓ 予習、復習	7 限: 高度実践 看護学講義	夕食、家事など ↓ オンライン講義の 復習	
21:15 ~		夕食 ↓ 予習、復習			夕食 ↓ 予習、復習		

学ぶことの楽しさとバラエティに富む皆さんと「縁」を結べます

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程 松田清人さん

2022年4月から、週3日の会社勤務をしながら65歳の大学院生生活をしています。

1979年大学卒業後、製薬企業でがむしゃらに働いてきました。昨年「勉強することに浸ってみたい」という欲求を実現させる最後のチャンスと思い、乃木坂スクール受講で知っていた国際医療福祉大学大学院にアクセスしました。簡単な志願理由書と教授陣の面談で合否が決まる分野と知り、気軽に受験しました。

入ってみると、生涯現役のモデルともいえる教授はじめ、院生もほとんどの皆さん働きながらの、バラエティに富んだ魅力的な方ばかりです。授業内容も刺激的で面白いことに加え、教授陣、同じ分野の博士課程・修士課程の方や、授業参加の皆さんと「縁」ができたことは、喜びとするところです。

「働き」ながら「学」べ、幅広い自由なテーマ設定のできる「医療福祉ジャーナリズム分野」です。皆さんへお褒めいたします。

この半年、自分が大きく成長できたと思います。みなさん一緒に学びませんか

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程 速水沙恵さん

大学の外国語学部で外国人の健康、国際医療交流に興味を持ち、卒業と同時に2022年4月、大学院進学を決めました。周りは実力のある社会人の先輩ばかり。とても不安でしたが、先輩、同級生、そして著名なジャーナリストの先生方は、私を見捨てることなく、わかるようになるまで教えてくださいました。大熊由紀子先生の「福祉と医療・現場と政策の新たなえにしを結ぶ会」では、総合司会を務め、たくさんの先輩と知り合いになりました。自分なりの問題意識を整理し、講義の最後の発表会で、敢闘賞にも選ばれました。これまでにない経験を積むことができ、充実した生活を送っています。

自分の意見を発信したいひと、ヘルスケアに興味があるひと、「自分なんて・・・」と臆することはありません。ぜひ挑戦してみてください。一緒に学びましょう。

世の中が今までと違って見えてくる楽しさに、ワクワク
論理的な思考が足りない・・・その弱点にも挑んでいます

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程 山口久美さん

長く知的障害、発達障害分野で、障害のある人たちの支援の仕事に携わってきました。

障害福祉に対する想いはたくさんあるけれど、論理的な思考が足りない・・・その弱点に挑んでみようと思っ
てここで学ばせていただいています。

論理的な考え方を学ぶことは知恵熱がでそうなくらい今まで使わなかった脳を使いますが、世の中が今までと
違って見えてくる楽しさにワクワクしています。

同時に、これまで「それしかない」と思っていた現場で育ててきた想いや倫理観は、研究を進める上での強み
になるということに気づくこともできました。

現場の「声なき声」を伝えるべく、語れる支援者めざして頑張りますp(^^)q

**挑戦し続ける超人から生の声をうかがえる特権！
一生の友人にも出会えました**

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程

急性期総合病院勤務の歯科衛生士 北澤浩美さん

家と職場との往復の日々。歯科衛生士の資格を取得して約20年。漠然と現状維持の毎日に不安と物足りなさを感じ、大学院に飛び込みました。

自分が狭い世界にいることは自覚していましたが、大学院の授業を受け、改めて世の中の動きを知り、そこにある理不尽さを感じるようになりました。ゼミでは、その理不尽さを克服すべく、あの手この手を駆使して挑戦し続けている超人の方々の飾らぬ生の声を伺うこともできます。これは、学生ならではの特権！有難いことです。

そして何より嬉しいことは、恐らく大学院を卒業しても未永く繋がることができると思う同級生に出会えたことです。大人になって、このような友人を作れることも大学院に入学したからこそ、ですね！正直なところ、授業の度に情けない自分に気づかされ、飛び込む場所を間違えたのではないかと落ち込むこともありますが、様々なものを見て聞いて感じるができるこの環境には、感謝のひとつです。

**自分の知らない世界がまだまだ沢山あると実感
毎回、「目から鱗」**

**医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程
薬剤師・介護福祉専門員 大沢理奈さん**

医学系出版社に10数年勤務していましたが、情報を正しく扱ってそれを伝えていくことの大切さを感じて入学しました。

教授陣もさることながら、講義をされるのはあらゆる分野の方で、自分の知らない世界がまだまだ沢山あると実感することが出来ます。医療福祉の分野も政治や政策に大きく左右されているというバックグラウンドまで学べます。

毎回、「目から鱗」が落ちます。

ジャーナリズム分野での多くの出会いは大切な財産 人生の新しい地図が見えてきました

医療福祉ジャーナリズム分野 修士号取得 ケアマネジャー 藤村忍さん

ケアマネジャーをやってきた私が、医療福祉ジャーナリズム分野を選択したのは、ケアマネジメントという狭い世界ではなく、もっと違う視野から福祉を探求してみたいという思いがあったからです。一つの研究テーマについて深く考え、悩み、探求した体験は、私の人生にとって何ものにも代えがたい貴重な時間となりました。

多彩なゲスト講師との出会いをとおして、「では、あなたは何をするの？」とつねに問いかけられているように感じ、それを考え続けた2年間でもありました。支援する・されるという立場を超え、「共に生き」「共に何ができるのか」を考えるようになりました。そして、そこからおのずと、これからの私の人生の新しい地図が見えてきたように思います。

さまざまな背景をもつ院生や卒業生の方たちとの出会いも私にとってかけがえのない財産となりました。ジャーナリズム分野でなければ出会えなかった人たちばかり、大きな刺激をもらいました。

医療と福祉について、さまざまな角度で鋭く学べる場所はここしかない

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程

薬剤師 吉田和佳子さん

現状を変えたい、新たなことを学びたいと、勢いに任せて入った大学院修士課程。

1年半がたち、医療と福祉について、さまざまな角度で鋭く学べる場所はここにしかない、結局入るべくして入ったのかと思っています。

「今の社会はバリアがあっても何のそのという人が発言力をもっているアブノーマルな社会。障害のある方や高齢の方は、人里離れたところに追いやってしまっている。」

講義の中のこの言葉は深く刺さりました。

尊敬する先生方の元、先輩方、ともに学ぶ大学院生の皆さんとのつながりからも大きな力をいただいています。

"朱に交われれば赤くなる"、卒業するころに、どんな赤色になっているかは自分次第ですけど。

医療福祉ジャーナリズム分野 修士号取得

医療福祉ジャーナリスト/翻訳家/通訳 早野・ZITO・真佐子さん

この大学院の素晴らしさは、専門とする領域だけでなく、興味があれば医療・福祉のあらゆる領域の教授陣の授業を受け、知見を広げ深める機会が数多く提供されているということ。他分野で学ぶ院生との交流が多いこと。そして、何よりも、さまざまな医療・福祉の現場で活躍するプロから、お話をうかがう機会がとても豊富なこと。

医療ジャーナリストや医療ライターを目指す人には、それはまさに理想的な環境です。

在学中のさまざまな出会いから、自分では思ってもいなかった方向へ仕事が広がっていくこともあります。

私は在学中は主として看護師の仕事をテーマに取材・研究をして、修士論文に手を加えた原稿は、「ルポ・看護という仕事」として出版されました。今も、看護師の仕事は自分の取材テーマの一つではありますが、その後、在宅医療、医療安全、精神医療の分野などにもテーマは広がっています。

卒業後も、在学中に出会った先生方やさまざまな分野で活躍する卒業生とつながりながら、医療と福祉のジャーナリズムを幅広く追及していけることに大きな魅力を感じています。

**「がん患者に役立つ情報の提供を」と、分野最高齢で修士号を取得
84歳の今も研究生として活躍中**

**医療福祉ジャーナリズム分野 修士号取得
研究生 清田政孝さん**

定年退職して20年も過ぎた高齢者が大学院に入学して、修士論文の指導が受けられるか不安でした。幸いに、大学院は全体ゼミと個別指導が完備されており、その心配は杞憂に終わりました。教育に情熱あふれる埴岡教授の熱心な指導を受けて、2年間研究した私の修士論文のタイトルは「がん患者に理解しやすい施設別情報提供の仕方」です。修了後も研究生となって2年目ですが、最大のメリットは研究の基本的な考え方と論文の作成方法が理解できたことです。少人数のため同期生の支援が受けられたのも魅力でした。

本音で語り合えるあたたかい貴重な時間

医療福祉ジャーナリズム分野 修士号取得

全国訪問ボランティアナースの会キャンパス代表・開業看護師を育てる会 理事長

菅原由美さん

日々、医療福祉の現場で仕事をしている私にとって大学院は、ここでなければ直接お会いすることはおそらく不可能な教授やゲスト講師が毎回来てくださり、生の声をお聞きし、本音で話ができる何よりも素晴らしい時間です。仕事をしながら大学院へ行くなど、時間的に不可能だと思っていましたが、先生方の人間性からなのでしょう。看護の世界しか知らない私には、こんなにもあたたかい授業があったのだと、感動さえ覚えます。欠席したくない!! もったいない!! そんな気持ちで勉強をしています。

2. 事前相談について（要項P.3）

41

志望分野・領域、受講希望キャンパス、**研究指導教員**を選定後、
出願前に必ず**事前相談**を行い、出願の許可を得てください。

教員の選定は「募集要項」の「教員連絡先一覧」をご参照ください。
教員に直接コンタクトしていただく必要がありますが、
どうぞお気軽にご連絡ください。

「教員連絡先一覧」は、大学院ホームページからもダウンロードできます。
<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/admission/staff/>

修士課程 看護学分野公衆衛生看護学領域〔実践（資格取得コース）〕と、修士課程 臨床心理学専攻は、入学後に担当教員を決定しますので、事前相談を行う必要はありません。

**「事前相談」後、出願時に「研究計画書」を提出していただきますが、
必要に応じて事前相談のさいに教員にご相談ください。**



3. 修士課程 出願資格（要項P.21他）

42

本大学院 修士課程に出願が可能となる、主な出願資格

- (1) 通常の4年制大学卒業者
- (7) 高度専門士
- (9) 出願資格審査対象者（※）

※出願資格審査

●出願資格審査とは、本大学院が出願資格の有無を判断する書類審査。**出願と同時に審査を行う。**事前相談で研究指導教員が出願を認めた場合は、出願書類とともに、**出願資格審査申請書や各分野で指定された書類**を入試事務室まで送付。

4. 修士課程 出願資格審査（要項P.27他）

43

- ① 4年制大学卒でなくとも、満22歳以上の方で申請条件を満たしていれば、出願資格審査の申請が可能。審査を通過した場合に、出願書類を正式に受理する（※出願が認められた場合のみ、入試日程を調整し、受験票を発送する）。
- ② 専攻・分野によっては、国家資格等の保持等を出願資格審査の申請条件としている。募集要項をよく確認すること。
- ③ 出願資格審査の申請条件を満たしていても、事前相談時に研究指導教員が認めなければ、出願資格審査を申し込むことはできない。

※薬科学研究科は原則として大卒者のみを対象とするため通常、出願資格審査は実施しない。

5. 博士課程 出願資格（要項P.51）

44

本大学院 博士課程に出願が可能な、出願資格

(1) ~ (5) 修士の学位を有する者

※ただし、修士の学位を持たなくとも、満24歳以上の方で以下の条件を満たしていれば、博士課程の出願資格審査（P.51）の申請が可能（ご不明点は入試事務室にお問い合わせを）。

- ① 大学卒業後 5 年以上の研究歴の実績を有し、関連分野における査読のある学術雑誌に掲載された 1 編以上の原著論文（筆頭著者）があり、かつ指導を受けようとする教員が認めた者
- ② 医学部・歯学部・薬学部・獣医学部等、大学の 6 年制学部を卒業した者で、指導を受けようとする教員が認めた者

